

里芋 (さといも)

お月見とは、一般的には旧暦8月15日の「十五夜」をさします。

十五夜は秋の美しい月を観賞しながら、秋の収穫に感謝をする行事で、「中秋の名月」と呼ばれています。旧暦では7月～9月が秋にあたり、初秋は台風や長雨が続きませんが、仲秋は秋晴れも多く空が澄んで月が美しく見えます。そこで、



中国から伝わった月見を取り入れ、平安貴族が月見の宴を催して風雅を楽しむようになりました。やがて月見が庶民に広がると、実りに感謝する行事になっていき、芋類の収穫祝いをかねているため、「芋名月（いもめいげつ）」という別名で呼ばれるようにもなりました。

当初は、日本でも里芋の収穫を祝う行事として広まりましたが、日本の農作物といえば「米」であり、だんだんと米を供えることが多くなり、米から作られる「だんご」へと移っていったようです。

2018年の十五夜は、9月24日（月）です。

里芋料理を食すのもいいのではないのでしょうか。

=里芋 (さといも) =

サトイモ（里芋/さといも）とは、サトイモ科の植物の塊茎（かいけい）と肥大した地下茎の総称です。この肥大した地下茎を主に食用としています。

インド東部からインドシナ半島が原産で、現地ではタロイモと呼ばれています。日本でも縄文時代から栽培され、ジャガイモやサツマイモがそれほどメジャーではなかった江戸時代までは、芋の主役だったといわれています。

●主な産地と生産量

里芋の生産が多いのは千葉県と埼玉県です。続いて新潟県、栃木県などですが、全国的にみて関東での生産量がとても多いです。

〔引用〕

暮らしの歳時記 <https://allabout.co.jp>

旬の食材百科 foodslink.jp/syokuzaihyakka/syun/vegetable/satoimo.htm

（文責：行政 高井美江子）